

学校名	秋田県立視覚支援学校	評価領域	研究・学習指導
-----	------------	------	---------

重点目標	視覚障害教育の専門性に基づく指導の充実	P
現 状	<p>本校では、「障害による困難を改善・克服するために必要な知識、技能の習得」を教育目標の一つとして教育実践に取り組んできた。しかし、「学習手段（文字の読み書き、視覚補助具の使用等）」「安全な歩行」「障害受容（自己理解）」「援助依頼」などにおける困難を十分に改善できずにいる児童生徒が少なからずおり、課題となっている。ここ十数年間は幼児児童生徒数が少なく、教職員の指導経験にも偏りがあるため、実践に根ざした経験の蓄積が難しい分野もある。研修体制及び指導体制を整備することで、視覚障害教育の専門性を蓄積し、継承する必要がある。</p> <p>学習指導要領では、資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を求めている。在籍児童生徒数が少ない本校では、ほとんどの授業を少人数又は個別で行っているため、児童生徒は教師との関わりが主となり、他者の意見や様子を見聞きする経験が少ない。また、視覚障害のある児童生徒は、得られる情報量が少ない上、得た情報も質的にあいまいで不正確なことが多いため、自分の得たイメージを言語化し、対話によって深め、適切なイメージの定着を図るプロセスが重要である。</p> <p>このような本校の現状と視覚障害教育における対話の重要性から、今年度より研究主題を「深い学びにつなげるための対話を基盤においた授業づくり」とし、授業実践を通して専門性の蓄積を図ることとした。</p>	
具体的な目標	<p>(1) 視覚障害教育の専門性の維持・継承と向上を図る研修の充実</p> <p>(2) 少人数や多様な障害の状態に応じた指導・支援の充実</p>	
目標達成のための方策	<p>○研修内容・方法の見直し</p> <p>○「対話的な学び」を重視した授業づくり</p> <p>○3観点評価による学びの見取りと授業改善</p>	
具体的な取組状況	<p>○研修内容・方法の見直し</p> <p>新任者を対象として年20回実施する基礎研修（視覚障害教育の基本的な知識や技術を身に付けるための研修）に、新任以外の教職員も参加できる体制を整えた。教務部や研究部による全体研修を年2回実施した。全教職員に対して、校内研修に関するアンケートを実施した。</p> <p>○「対話的な学び」を重視した授業づくり</p> <p>学部を主な単位とする研究グループごとに、参考文献等に基づき、「対話的な学び」の実現に向けた授業づくりについての共通理解を図った。その上で、「対話的な学び」を重視した授業づくりと授業実践を行った。「対話的な学</p>	

	<p>び」を成立させるため、「主体的な学び」の視点にも留意した。</p> <p>○3観点評価による学びの見取りと授業改善</p> <p>各研究グループの対象授業では、児童生徒の学びの過程を見取ることができるよう、学習活動に対応させた3観点による評価基準を設定した。全校及びグループ授業研究会では、評価基準に基づいて児童生徒の学びの姿を評価し、「対話的な学び」の実際や教師の手立てについて、効果及び改善案を協議した。</p>	
達成状況	<p>(1) 視覚障害教育の専門性の維持・継承と向上を図る研修の充実</p> <p>基礎研修への新任以外の教職員の参加が予想以上に多く、研修受講に対するニーズに応える機会とすることができた。実施したアンケートからも、本校での経験年数を問わず、大部分の教職員が専門性の習得に対する必要性を感じていることを確認した。一方、全体研修を専門性の向上等に資する内容とするためには、分掌間の十分な連携や準備が必要であった。</p> <p>(2) 少人数や多様な障害の状態に応じた指導・支援の充実</p> <p>対象授業の実践を通して、少人数や個別の学習においても「対話的な学び」を幅広く展開できることについて、共通理解が進んだ。また、児童生徒の発達段階や特性等によって、効果的な「対話的な学び」やその手立ては異なることを確認した。評価基準を設定したことにより、その達成に向けて必要な発問や教材の工夫について、教員間で検討し合うことができた。</p>	



自己評価	<p>(評価) B</p> <p>「対話的な学び」の視点で設定した学習活動によって、児童生徒が知識や技能を活用し、自分の考えを広げ深める姿を確認することができ、その意義を教員間で共通理解した。</p> <p>一方、教職員の専門性の向上に向けては、新任者以外の教職員のスキルアップを図る研修の不足を指摘する声があり、研修体制の整備面では課題が残った。</p>	C
------	--	---



学校関係者評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>学校関係者からは、教職員が視覚障害教育の充実に向けて、様々な取組を行っていることに対して、肯定的評価が寄せられた。</p> <p>一方、在籍児童生徒数の減少が、学校としての視覚障害教育の専門性に影響を与えることにならないよう、更なる工夫が必要だとの意見が寄せられた。</p>	C
------------	--	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業づくりと、視覚障害教育において求められる配慮事項等との関連を明確にすることにより、校内研究推進と専門性向上との連動を強化する。</p> <p>教育専門監の活用により、「視覚障害教育の専門性」を明確に整理する。その内容に基づき、研修内容・方法等を再検討し、実効性のある校内研修体制を整える。</p>	A
-----------------------	---	---